

令和4年度

全国学力・学習状況調査結果について

—川崎市の児童生徒の学習・生活の状況—

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について

－ 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 －

○調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査の実施状況 ※調査の種類により調査人数は若干変動

小学校 114校 中学校 52校 特別支援学校 1校 (小学部・中学部)

小学校 第6学年 約11,530名 中学校 第3学年 約9,160名

(質問紙調査のオンライン回答校 小学校8校 中学校3校)

○児童生徒に対する調査

〈教科に関する調査〉 小学校調査 - 国語・算数・理科 中学校調査 - 国語・数学・理科

教科に関する調査は、次の①と②を一体的に出題している。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

〈質問紙調査〉 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

本年度の主な調査項目・挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等 ・ICTを活用した学習状況

・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

○学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

○調査実施日 令和4年4月19日(火)

○教科に関する調査結果の概要

1 教科に関する調査の平均正答数(問)と平均正答率(%)

令和4年度	小学校調査					
	国語(14問)		算数(16問)		理科(17問)	
	正答数(問)	正答率(%)	正答数(問)	正答率(%)	正答数(問)	正答率(%)
川崎市	9.5	68	10.8	67	11.2	66
全国	9.2	65.6	10.1	63.2	10.8	63.3

令和4年度	中学校調査					
	国語(14問)		数学(16問)		理科(21問)	
	正答数(問)	正答率(%)	正答数(問)	正答率(%)	正答数(問)	正答率(%)
川崎市	9.7	70	7.5	54	10.6	50
全国	9.7	69.0	7.2	51.4	10.4	49.3

※川崎市、全国の値は、公立学校の調査結果です。

※文部科学省の公表と同様に、政令指定都市の平均正答率は整数値で表しています。

2 本市の傾向

上記1のいずれの項目の平均正答率も全国の数値を上回っている。また指定都市においても上位に位置している。

① 教科に関する調査

「教科に関する調査」の校種、教科ごとの概要は以下に示す通りである。

全体の傾向については、領域、設問ごとに川崎市の正答率と全国とを比較して、「△」「▼」印を付けている。(△:上回った主な設問 ▼:下回った主な設問 5ポイント以上の差に下線)

結果の概要については、内容・領域等ごとに個々の設問について特徴的なものを取り上げて、「◇」「◆」印を付けている。(◇:比較的できている点 ◆:課題があると考えられる点)

小学校 国語

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

(例) ■ 話し合いにおける発言の理由として適切なものを選択する。

■ 「ゴミ拾い」と「花植え」から公園の美化活動にふさわしいものを選び、問題点についての解決方法を考えて、どのように話すかを書く。

■ 物語から伝わってくることを考え、推薦する文章の内容を書く。

■ 文章に対する感想の伝え合いを基にして、文章のよさを書く。

○全体の傾向

・学習指導要領の内容ごとの傾向

平均正答率は、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」では68.0%、「書くこと」では51.6%、「読むこと」では73.6%、〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では68.8%、「我が国の言語文化に関する事項」では76.8%である。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」において全国を上回り、特に「読むこと」は5ポイント以上、上回った。「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」においては全国を下回った。

・設問ごとの傾向

平均正答率は全14問中10問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

△2一(1)「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する。(75.8%、+7.4)

△2一(2)「老人」が「未来のぼく」だと考えられるところとして適切な叙述を選択する。
(78.8%、+8.2)

△2二 物語から伝わってくることを考え、推薦する文章の内容を考える。(74.2%、+5.9)

△2三 物語の最後の一文の表現の効果を考える。(65.7%、+6.5)

○学習指導要領の内容ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと〔思考力、判断力、表現力等〕

◇1三 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容の中心を捉えることはできている。(87.4%、+2.7)

◆1四 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題がある。(48.7%、+1.0)

書くこと〔思考力、判断力、表現力等〕

◆3二 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。(40.3%、+2.6)

読むこと〔思考力、判断力、表現力等〕

- ◇ 2一（2） 登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることはできている。
(78.8%、+8.2)
- ◆ 2三 表現の効果を考えることに課題がある。(65.7%、+6.5)

言葉の特徴や使い方に関する事項〔知識及び技能〕

- ◇ 1一 話し言葉と書き言葉との違いを理解することはできている。(86.9%、+1.4)
- ◆ 3三 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。
イ はんせい(55.9%、-2.8)

○授業改善に向けて**話すこと・聞くこと****○互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる指導の充実**

話し合いを始める際に話し合いの目的や方向性を検討すること、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理すること、様々な視点から検討して自分の考えをまとめることなどが重要である。また、考えをまとめる際には、異なる意見を自分の考えに生かされるように「～という考えもあるけれど」などの表現を用いられるようにすることが大切である。

書くこと**○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える指導の充実**

指導事項の系統性を踏まえて、推敲する観点を明確にすることが大切である。また、書く相手や目的に応じて自分の書いた文章を読み直し、整えることができるようにすることも大切である。その際、読み手にとって分かりやすい文章にしたり、自分の伝えたいことをより明確にしたりすることを意識し、推敲する必要性を感じるようにすることが重要である。

○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける指導の充実

伝え合う経験を積み重ねていくことで、自分の文章のよいところを見つけたり、それを言葉で表したりする指導が大切である。自分が書いた目的や意図を相手に伝えたり、感想や意見を具体的に伝え合ったりすることができるように指導することが大切である。

読むこと**○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする指導の充実**

登場人物の人物像を具体的に想像するためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して判断することが重要である。また、物語の全体像は登場人物の場面設定、個々の叙述などを基にした物語の世界や人物像などを豊に想像したり、登場人物の相互関係を手がかりにして考えたりすることで捉えられる。

表現の効果を考えることができるようにするためには、感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目して読むことを指導すると効果的である。また、表現の効果を考える際は、想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしていくことが大切である。

言葉の特徴や使い方に関する事項**○学年別配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う指導の充実**

同じ漢字を繰り返し練習することにとどまらず、学習において感想や振り返りを書く場面や、日常生活において日記を書く場面などで漢字を使うことを意識した取組が必要である。その際、同じ部分をもつ漢字や同じ読み方をする漢字に注意して書くことを指導することが大切である。

中学校 国語

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

- (例) ■ スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く。
 ■ ウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える。
 ■ 作品の結末での登場人物の心情を解釈し、話の展開を取り上げて書く。

○全体の傾向

・学習指導要領の内容ごとの傾向

平均正答率は、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」では66.2%、「書くこと」では43.6%、「読むこと」では71.0%、〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では72.1%、「情報の扱い方に関する事項」では43.6%、「我が国の言語文化に関する事項」では70.9%である。「話すこと・聞くこと」「読むこと」「我が国の言語文化に関する事項」において全国を上回った。「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」においては全国を下回った。

・設問ごとの傾向

平均正答率は全14問中8問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上ある設問はない。

○学習指導要領の内容ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

- ◇1一 聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することはできている。(73.2%、-1.5)
- ◆1三 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことに課題がある。(55.6%、+3.8)

書くこと 情報の扱い方に関する事項

- ◆2三 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。(43.6%、-2.9)

読むこと

- ◇3四 場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することはできている。(76.8%、+3.0)
- ◆3三 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることに課題がある。(65.2%、+3.2)

言葉の特徴や使い方に関する事項〔知識及び技能〕

- ◇2一 助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うことはできている。(83.3%、+1.0)
- ◆3一 表現の技法について理解することに課題がある。(50.0%、-2.5)

我が国の言語文化に関する事項【知識及び技能】

- ◇4二 漢字の行書の読みやすい書き方について理解することはできている。(90.1%、±0)
- ◆4一 行書の特徴を理解することに課題がある。(39.8%、+0.4)

○授業改善に向けて

話すこと・聞くこと

○自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫して話す指導の充実

授業においては、例えば、ICT 機器を活用してスピーチの様子を動画で記録し、話し方を振り返ったり、工夫したことの効果を確認めたりするなどの学習活動が考えられる。その際、聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら話す内容や話し方を検討したり、なぜそのように表現を工夫したのか、その意図を明確にして工夫したことの効果を確認めたりすることが大切である。

書くこと

○自分の考えが分かりやすく伝わるように、根拠を明確にして書く指導の充実

自分の考えが伝わる文章を書くためには、根拠を明確にすることが大切である。そのために、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認することが必要である。その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要である。根拠を記述するに当たっては、根拠となる複数の事例や専門的な立場からの知見を引用することなどが考えられる。

読むこと

○場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える指導の充実

文学的な文章を読む際には、文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めることが大切である。その際、細部の描写にも着目しながら物事の様子や場面、行動や心情などの変化を丁寧に捉えていくことが有効である。例えば、心情を表す言葉を取り上げてその変化をたどったり、叙述の細かな違いに注意して読み、それぞれの叙述が表している心情の違いを考えたりする学習活動が考えられる。

情報の扱い方に関する事項

○引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、使えるようにする指導の充実

本や資料から文章や図表などを引用する必要がある言語活動の中で、引用の際には引用箇所をかぎかっこ(「 」)でくくること、出典を明示すること、引用部分を適切な量とすることなどについて確認するとともに、引用する目的や効果について考えるように指導することが大切である。

我が国の言語文化に関する事項

○行書の特徴を理解する指導の充実

直線的な点画で構成されている漢字を行書で書く際には、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどといった行書の特徴を理解して書くことが重要である。その際、楷書で書いた漢字と比較するなど、これまで学習してきたことを踏まえて指導することが大切である。

小学校 算数

○調査問題の内容

学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

- (例) ■ 21個入りの1470円のBセットのカップケーキについて、その7個分の値段を、 $1470 \div 3$ で求めることができるわけを書く。
- 果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く。
- 交流会の遊びについて、1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く。
- 辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ。

○全体の傾向

・学習指導要領の領域ごとの傾向

領域ごとの平均正答率は、「数と計算」では72.4%、「図形」では69.0%、「変化と関係」では56.7%、「データの活用」では73.0%である。全ての領域において全国を上回った。

・設問ごとの傾向

平均正答率は全16問中15問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

- △1(4) 85×21 の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ。(44.2%、+9.4)
- △2(2) 果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く。(71.7%、+7.1)
- △2(3) 果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ。(28.2%、+6.8)
- △3(2) 分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ。(71.2%、+7.3)
- △4(1) 示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す。(56.9%、+8.1)

○学習指導要領の領域ごとの結果の概要

数と計算

- ◇1(1) 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることはできている。(93.7%、+1.3)
- ◆1(4) 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することに、課題がある。(44.2%、+9.4)

図形

- ◇4(2) 図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解することはできている。(86.7%、+3.5)
- ◆4(1) 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述することに課題がある。(56.9%、+8.1)

変化と関係

- ◇ 2 (1) 百分率で表された割合を分数で表すことはできている。(73.2%、+2.1)
- ◆ 2 (3) 示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことへの理解に課題がある。(28.2%、+6.8)
- ◆ 2 (4) 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述することに課題がある。(54.0%、+6.0)

データの活用

- ◇ 3 (1) 表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることはできている。(77.8%、+2.5)
- ◇ 3 (2) 分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察することに課題がある。(71.2%、+7.3)

○授業改善に向けて**数と計算****○目的に合った数の処理の仕方を考えることができるようにする指導の充実**

日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きくみたり小さくみたりして、概算できるようにすることが重要である。その際、概数にする方法である切り上げ、切り捨て、四捨五入を用いて計算し、それが適切であるかどうかを判断できるようにすることが大切である。

図形**○図形を構成する要素などに着目し、図形の意味や性質、図形の構成の仕方について考察できるようにする指導の充実**

図形を構成する要素などに着目して、図形の意味や性質について理解し、それを基に図形の構成の仕方について考察できるようにすることが重要である。その際、辺の長さや角の大きさなどに着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を考えたり、作図の仕方を筋道立てて説明したりすることができるようにすることが大切である。

変化と関係**○基準量、比較量、割合の関係について理解できるようにする指導の充実**

割合を用いて問題を解決するためには、問題場面の数量の関係を捉え、基準量、比較量、割合の関係について理解し、数学的に表現・処理できるようにすることが重要である。その際、日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるようにすることが大切である。

データの活用**○目的に応じて、表やグラフを読み取り、データの特徴や傾向を捉え考察できるようにする指導の充実**

日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察できるようにすることが重要である。その際、分類整理されたデータについて、筋道立てて考察できるようにすることが大切である。また、複数のグラフから適切なグラフを選択し、データの特徴や傾向を読み取ることができるようにし、分析した結果から得られる結論が妥当かなど、別の観点で見直してみることで、異なる結論が導き出せないかどうかを考察する活動も大切である。

中学校 数学

○調査問題の内容

学習指導要領（平成29年告示）における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

（例）■ 42を素因数分解する。

■ 差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する。

■ ある条件を保ったまま、辺の長さを変えた場合に、角の大きさについて成り立つ性質の説明を完成する。

■ 目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する。

■ コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する。

○全体の傾向

・学習指導要領の領域ごとの傾向

領域ごとの平均正答率は、「数と式」では60.3%、「図形」では46.3%、「関数」では47.4%、「データの活用」では57.3%である。全ての領域において全国を上回った。

・設問ごとの傾向

平均正答率は全14問中13問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

△4 変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ。(44.1%、+6.2)

○学習指導要領の領域ごとの結果の概要

数と式

◇2 簡単な連立方程式を解くことはできている。(78.3%、+3.8)

◆6(2) 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。(51.9%、+3.2)

図形

◇9(1) 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解することはできている。(76.4%、+3.2)

◆3 反例の意味の理解に課題がある。(46.0%、+1.1)

◆9(2) 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。(16.5%、+4.0)

関数

◆8(1) 与えられた表やグラフから、必要な情報を読み取ることに課題がある。(57.1%、+2.5)

◆8(2) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。(41.1%、+2.7)

データの活用

- ◇ 5 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解することはできている。(84.0%、+0.7)
- ◆ 7 (1) データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(44.2%、+0.2)
- ◆ 7 (2) 箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることに課題がある。(43.8%、-0.3)

○授業改善に向けて**数と式****○事柄が成り立つ理由を、構想を立て、根拠を明確にして説明する活動の充実**

事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立てて説明する場面を設定し、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるように指導することが大切である。その際、予想した事柄について見直しをもって式を変形したり、また変形した式について話し合ったり、説明し合ったりする場面を設定することも大切である。

図形**○筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する活動の充実**

結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を、筋道立てて考えたりする活動を取り入れ、数学的に説明する活動を充実することが大切である。

関数**○事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実**

様々な問題を、数学を活用して解釈できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決するためにどう用いたかといった「用い方」について考え、説明できるように指導することが大切である。その際、実際に行った解決の過程を振り返る場面を設定し、解決の見直しをもつ場面で出された方法の説明として不十分なものを取り上げ吟味し、より洗練された表現に高めていく工夫が必要である。

データの活用**○データの傾向を読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する活動の充実**

データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるようにするために、ヒストグラムや箱ひげ図の特徴を読み取り、そのことを根拠として判断した理由を説明する活動を充実することが大切である。その根拠を、最大値、最小値、範囲、累積度数、四分位範囲、四分位数、中央値などといった指標を用いて表現できるようにし、分析した結果から得られる結論が妥当かなど、多面的に吟味し、批判的に考察できるようにすることが大切である。

小学校 理科

○調査問題の内容

学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、「A物質・エネルギー」、「B生命・地球」の二つの内容区分から、バランスよく出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

(例) ■ 昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫かどうか説明するための視点を選ぶ。

- 水溶液を凍らせた物について、「試してみたいこと」を基に、見いだされた問題を書く。
- 重ねた日光と的の温度についての実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ。
- 夜の気温の変化について、他者の予想を基に、結果の見通しについて表したグラフを選ぶ。

○全体の傾向

・学習指導要領の領域ごとの傾向

領域ごとの平均正答率は、「エネルギー」では 55.1%、「粒子」では 61.2%、「生命」では 77.8%、「地球」では 68.4%である。全ての領域において全国を上回った。

・設問ごとの傾向

平均正答率は全 17 問中 16 問で全国を上回った。全国との差が 5 ポイント以上である設問は以下の通りである。

- △ 2 (3) 水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ。(69.1%、+6.3)
- △ 3 (2) 実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ。(79.7%、+5.3)
- △ 3 (3) 鏡で跳ね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く。(74.5%、+5.6)
- ▼ 2 (1) 一定量の液体の体積をはかり取る器具の名称を書く。(61.5%、-6.3)

○学習指導要領の領域ごとの結果の概要

エネルギー

- ◇ 3 (2) 実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶことはできている。(79.7%、+5.3)
- ◆ 3 (1) 光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることに課題がある。(28.4%、+0.6)
- ◆ 3 (4) 問題に対するまとめからその根拠を実験の結果を基にして書くことに課題がある。(37.7%、+2.6)

粒子

- ◇ 2 (2) 水 50mL を測り取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶことについてはできている。(70.5%、+0.5)
- ◆ 2 (1) 一定量の液体の体積をはかり取る器具の名称を書くことに課題がある。(61.5%、-6.3)
- ◆ 2 (4) 凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書くことに課題がある。(40.8%、+1.5)

生命

- ◇ 1 (1) 見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶことはできている。(94.4%、+1.5)
- ◆ 1 (5) 育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶことに課題がある。(69.5%、+4.0)

地球

- ◇ 4 (1) 冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶことはできている。
(85.8%、+3.5)
- ◆ 4 (3) 結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶことに課題がある。(49.2%、+3.7)

○授業改善に向けて

エネルギー

○観察、実験などの過程やそこから得られた結果を適切に記録するなど、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができるようにする指導の充実

問題を的確に把握し、何を記録する必要があるかについて検討する場面を設定することが大切である。例えば、「鏡ではね返した日光を重ねるほど、的の温度は高くなるのだろうか」という問題を解決する際に、結果の見通しについて話し合い、必要な記録内容を明らかにする学習活動が考えられる。

粒子

○自然の事物・現象に働きかけて得た事実について、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるようにする指導の充実

自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で、自分や他者の気づきを捉え、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定することが大切である。例えば、空気の温度による体積の変化について学習した後、「空気は押し縮められるけれど、水は押し縮められなかったように、空気と水の性質は違うのかな」、「空気の温度と体積の関係が分かったけれど、水はどうなのかな」、などと調べたいことについて話し合う中で、「水は空気と同じように温度を変えると体積は変わるのだろうか」といった学習問題を見いだす学習活動が考えられる。

生命

○観察、実験などの結果について、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるようにする指導の充実

それぞれの気づきを明確にし、主に、差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定することが大切である。例えば、モンシロチョウの卵を見付け飼育しながら、「モンシロチョウはどのように育つのか」という問題を解決した後、モンシロチョウの観察記録について他の学習や生活経験と比較しながら、「校庭には様々な昆虫がいることを学習したけれど、他の昆虫はどのように育つのだろうか」や「他の昆虫にも卵や蛹のときがあるのかな」といったことから、「昆虫はどのように育つのだろうか」という問題を見いだす学習活動が考えられる。

地球

○観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにする指導の充実

結果などから結論を導出するために必要な数量、変化の大きさなどの特徴を見付け、自分の考えをもち、それらを話し合う場面を設定することが大切である。例えば、1日の気温の変化のグラフから、気温の変化の大きい時間帯や小さい時間帯と天気の様子との関係について読み取り、気温の変化と天気との関わりについて話し合う学習活動が考えられる。

中学校 理科

○調査問題の内容

学習指導要領における、第1分野の「エネルギー」を柱とする領域と「粒子」を柱とする領域、第2分野の「生命」を柱とする領域と「地球」を柱とする領域からバランスよく出題している。なお、第2学年までの内容となるようにしている。

- (例) ■ タッチパネルを科学的に探究する（「エネルギー」を柱とする領域）
 ■ 水の状態変化を科学的に探究する（「粒子」を柱とする領域）
 ■ 生物の外部形態を基に科学的に探究する（「生命」を柱とする領域）
 ■ 天気の変化を科学的に探究する（「地球」を柱とする領域）

○全体の傾向

・学習指導要領の領域ごとの傾向

領域ごとの平均正答率は、「エネルギー」では42.6%、「粒子」では51.1%、「生命」では60.2%、「地球」では44.8%である。全ての領域において全国を上回った。

・設問ごとの傾向

平均正答率は全21問中15問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問はない。

○学習指導要領の領域ごとの結果の概要

エネルギー

- ◇1 (2) タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択することはできている。(79.6%、+1.1)
- ◆5 (1) おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明することに課題がある。(20.2%、+4.9)
- ◆5 (3) 考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明することに課題がある。(44.6%、+1.3)

粒 子

- ◇3 (1) 分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表すことはできている。(80.2%、+0.1)
- ◆3 (3) 水素を燃料として使うしくみの例のおおもととして必要なものを分析して解釈することに課題がある。(24.3%、-0.5)
- ◆7 (2) 吸湿発熱繊維に、水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけによる考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘することに課題がある。(54.2%、+0.8)

生 命

- ◇4 (1) ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明することはできている。(75.0%、+0.5)
- ◆8 (1) アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述することに課題がある。(59.6%、+4.4)
- ◆8 (3) 生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断することに課題がある。(38.6%、-0.6)

地 球

- ◆ 2 (3) 上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断することに課題がある。(26.7%、-1.8)
- ◆ 6 (2) 陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘することに課題がある。(60.4%、+0.1)
- ◆ 6 (3) 東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択することに課題がある(35.1%、+0.9)

○授業改善に向けて

エネルギー

○物体に働く重力とつり合う力を矢印で表す学習活動の充実

物体に力を働かせる実験を行い、一つの物体に二つの力が働いていることに気付くようにし、それらの力の大きさや向きを矢印で表す学習場面を設定することは大切である。例えば、教室内の風景をG I G A端末で撮影し、画像の中からつり合っている力を見だし、物体に働く力を矢印で表すなどの学習活動を充実することが考えられる。

○考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善する学習活動の充実

身近な物理現象を科学的に探究する上で、考察の妥当性を高めるために、実験結果の処理について振り返り、実験の計画を検討して改善することは大切である。例えば、実験の測定値の不足から妥当性の高い考察が行えない場合、結果を表したグラフから、改善点を明確にし、実験の計画を検討して改善する学習活動を一層充実することが考えられる。

粒 子

○「粒子」を柱とする領域に関する知識及び技能を身近な現象で活用する学習活動の充実

「粒子」に関する知識及び技能について、身近な現象で活用できる程度に概念等を理解することは大切である。例えば、状態変化など「粒子」に関する知識及び技能と身近な現象を関連付けて探究する学習場면을繰り返し設定することで、日常生活や社会の場面で理科の知識及び技能を活用して、現象を説明する力を育成することができると考えられる。

生 命

○動物の外部形態を生活場所などに関連付けて、分析して解釈する学習活動の充実

身近な動物の外部形態の観察記録などに基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、動物の体の基本的なつくりを理解することが大切である。例えば、動物の外部形態を生活場所や移動の仕方などに関連付けて分析して解釈する学習活動を充実することが考えられる。

地 球

○地層の傾きを主として時間的・空間的な視点で捉え、分析して解釈する学習活動の充実

地層の広がり方を理解する上で、露頭のスケッチの位置関係をルートマップから捉えて空間として認識するなどして、分析して解釈することが大切である。例えば、地層モデルや露頭の360度パノラマ画像を活用して地層を立体的に捉え、生徒が試行錯誤しながら広がりや傾きを考える学習場面を設定することが考えられる。

② 学習や生活習慣などに関する児童生徒質問紙調査

「児童生徒質問紙調査」の概要は以下に示すとおりであるが、経年変化を見るために、小数点以下第一位までの数値で示している。特に記載ある場合を除き、数値は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合である。

なお、令和2年度の調査は全て実施していないので、欄を設けていない。

《学習に対する興味・関心や授業の理解度等》 国語

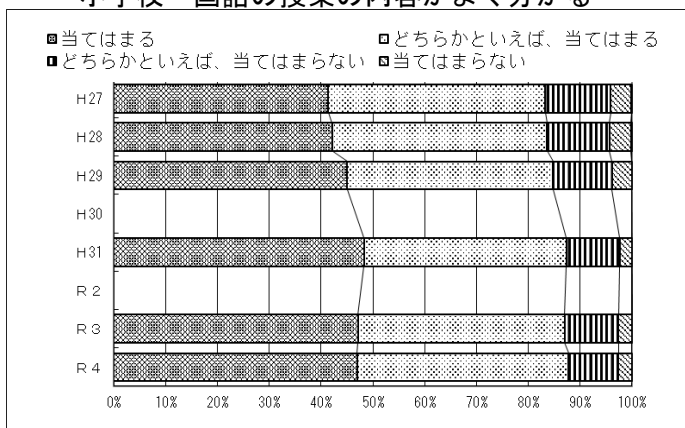
【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	全国 R4
国語の授業の内容がよく分かる。	83.2%	83.5%	84.5%	—	87.2%	86.9%	87.7%	84.0%
国語の勉強は好き。	63.2%	61.6%	64.1%	—	66.6%	60.6%	62.5%	59.2%
国語の勉強は大切だと思う。	92.5%	91.8%	91.6%	—	94.4%	94.8%	94.8%	93.3%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	88.4%	89.1%	88.0%	—	92.0%	93.3%	92.4%	91.8%

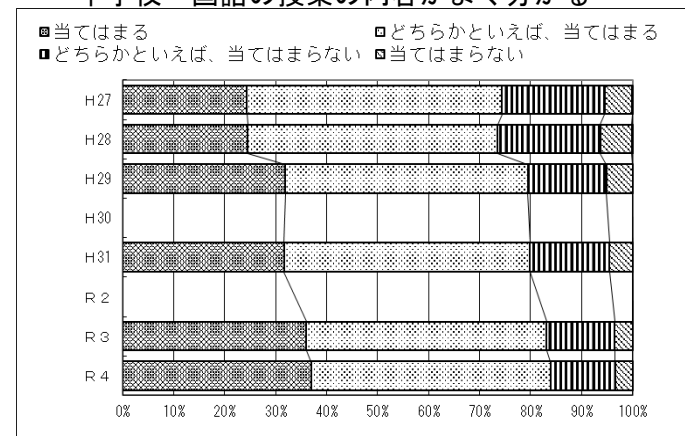
【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	全国 R4
国語の授業の内容がよく分かる。	74.2%	73.5%	79.1%	—	79.8%	83.0%	83.8%	81.2%
国語の勉強は好き。	62.5%	60.8%	66.1%	—	64.1%	63.9%	65.1%	61.9%
国語の勉強は大切だと思う。	88.9%	88.0%	89.2%	—	91.7%	93.2%	93.6%	93.2%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	82.6%	82.7%	83.6%	—	89.2%	92.0%	91.4%	89.7%

小学校 国語の授業の内容がよく分かる



中学校 国語の授業の内容がよく分かる



全国と比較すると、これらの質問項目では、小学校、中学校ともに、すべての質問項目で全国を上回った。

平成27年度と比較すると、中学校では、「国語の授業の内容がよく分かる」が9.6ポイント高くなった。それ以外の項目についてもすべて高くなっている。小学校では「国語の授業の内容がよく分かる」が4.5ポイント高くなった。

今後も、子どもたちの「確かな学力」を育むため、すべての子どもが「分かる授業」をめざして、一人ひとりの「授業が分かる」という実感を大切にしながら、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組むことが必要である。

また、引き続き、児童生徒が国語を学ぶ意義や言葉を扱うことのよさを実感しながらより主体的に学べるよう、指導の工夫に取り組むことが重要である。

＜参考＞ 令和3年度実施 川崎市立小中学校学習状況調査
(小学5年生、中学校2年生で実施)

- ・国語の授業の内容がよく分かる。 小5 93.1% 中2 87.1%
- ・国語の勉強は好き。 小5 69.7% 中2 65.8%
- ・国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。 小5 94.7% 中2 92.2%

《学習に対する興味・関心や授業の理解度等》 算数・数学

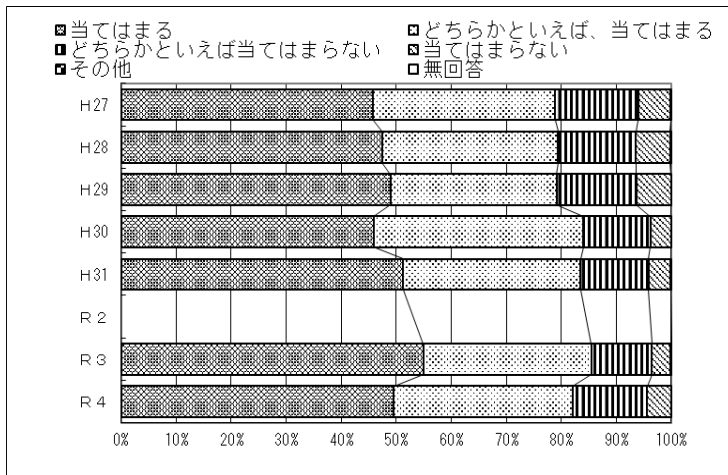
【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	全国 R4
算数の授業の内容がよく分かる。	78.8%	79.3%	78.6%	84.0%	83.4%	85.5%	82.0%	81.2%
算数の勉強は好き。	63.8%	66.1%	65.5%	65.3%	69.2%	67.8%	64.0%	62.5%
算数の勉強は大切だと思う。	93.2%	92.7%	91.7%	93.0%	94.6%	95.1%	95.6%	94.2%
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	90.0%	90.0%	88.3%	90.6%	93.1%	93.5%	93.9%	93.3%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	全国 R4
数学の授業の内容がよく分かる。	70.6%	69.8%	72.5%	74.2%	74.5%	78.5%	78.7%	76.2%
数学の勉強は好き。	55.1%	56.4%	59.2%	56.5%	59.4%	62.2%	59.1%	58.1%
数学の勉強は大切だと思う。	79.2%	78.0%	80.2%	82.5%	82.4%	85.0%	86.3%	86.6%
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	67.3%	67.3%	68.6%	68.9%	73.0%	75.5%	76.6%	76.5%

小学校 算数の授業の内容がよく分かる

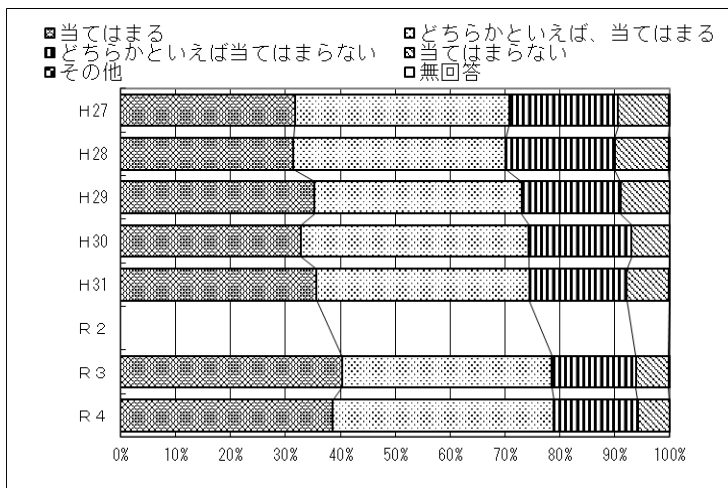


全国と比較すると、小学校では、全ての質問項目で全国を上回った。中学校では、3つの質問項目で全国を上回った。

平成 27 年度と比較すると、中学校では、「数学の授業の内容がよく分かる」において 8.1 ポイント、「数学の勉強は好き」において 4.0 ポイント、「社会に出たときに役に立つ」において 9.3 ポイント高くなった。小学校では「授業の内容がよく分かる」において 3.2 ポイント、「社会にでたときに役に立つ」において 3.9 ポイント高くなった。

今後とも、小中学校ともに一人ひとりが「分かる」授業づくりを継続して取り組むとともに、中学校では数学の勉強をすることの意味や意義を感じられるような授業づくりに取り組むことが重要である。

中学校 数学の授業の内容がよく分かる



＜参考＞ 令和 3 年度実施 川崎市立小中学校学習状況調査
 (小学 5 年生、中学校 2 年生で実施)

- ・算数（数学）の授業の内容がよく分かる。
 小 5 85.8% 中 2 78.2%
- ・算数（数学）の勉強は好き。
 小 5 68.8% 中 2 60.2%
- ・算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
 小 5 96.4% 中 2 83.7%

《学習に対する興味・関心や授業の理解度等》 理科

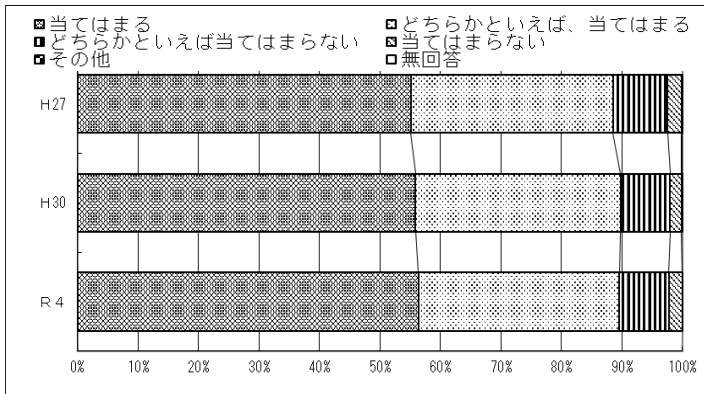
【小学校】

質問項目	H27	H30	R 4	全国 R4
理科の授業の内容がよく分かる。	88.4%	89.8%	89.4%	88.5%
理科の勉強は好き。	82.8%	82.5%	77.6%	79.7%
理科の勉強は大切だと思う。	86.4%	84.6%	86.8%	86.5%
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	72.5%	72.9%	77.4%	77.2%

【中学校】

質問項目	H27	H30	R 4	全国 R4
理科の授業の内容がよく分かる。	65.0%	71.4%	76.3%	75.2%
理科の勉強は好き。	59.7%	62.5%	66.7%	66.4%
理科の勉強は大切だと思う。	64.9%	68.0%	76.8%	76.8%
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	48.7%	51.0%	60.5%	61.5%

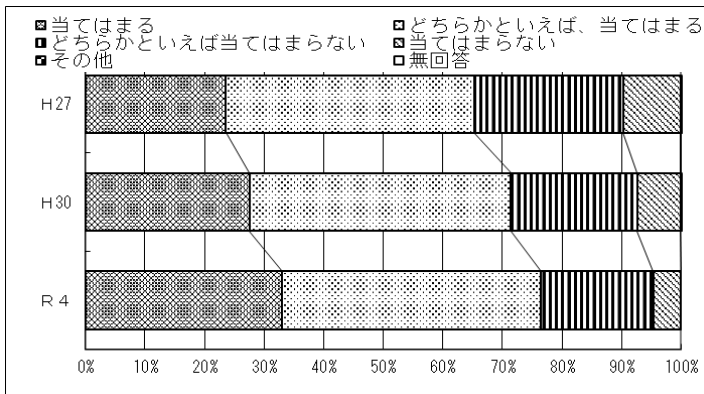
小学校 理科の授業の内容がよく分かる



全国と比較すると、これらの質問項目では、小学校、中学校ともに、「理科の授業がよく分かる」では、全国を上回った。

平成 27 年度と比較すると、中学校では、「理科の授業の内容がよく分かる」が 11.3 ポイント、「将来、社会に出たときに役に立つ」については、11.8 ポイント高くなった。小学校では「理科の授業の内容がよく分かる」「理科の授業は大切だ」「社会に出たときに役に立つと思う。」では、高くなった。

中学校 理科の授業の内容がよく分かる



今後もすべての児童生徒が「分かる授業」をめざして、一人ひとりの「授業が分かる」という実感を大切にしながら、指導の工夫に取り組むとともに、理科を勉強することの有用感を感じられるような授業を目指して、改善を進めていくことが重要である。

《規範意識、自己有用感等》

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	全国 R4
自分にはよいところがあると思う。	77.4%	79.0%	79.9%	87.3%	83.1%	79.1%	81.7%	79.3%
将来の夢を持っている。	84.6%	83.1%	83.9%	84.6%	81.2%	77.3%	77.7%	79.8%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	95.7%	95.9%	95.7%	96.9%	97.2%	96.9%	96.9%	96.8%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	93.7%	93.2%	92.6%	95.4%	95.4%	96.0%	95.7%	95.1%
※ 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。	95.5%	94.8%	96.0%	—	95.8%	86.4%	89.5%	87.2%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	77.7%	78.0%	78.8%	—	79.3%	73.0%	74.7%	72.5%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	全国 R4
自分にはよいところがあると思う。	67.6%	69.1%	70.4%	80.0%	75.0%	76.4%	79.3%	78.5%
将来の夢を持っている。	69.6%	67.8%	68.4%	70.3%	67.6%	65.2%	64.0%	67.3%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	91.7%	91.6%	91.5%	94.1%	93.9%	95.9%	96.0%	96.4%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	91.8%	90.9%	90.9%	93.7%	93.4%	94.6%	93.9%	95.0%
※自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。	93.8%	94.5%	94.8%	—	93.8%	84.5%	86.1%	86.6%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	67.2%	69.4%	71.7%	—	70.2%	66.0%	67.1%	67.1%

※ H31までは、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。」

規範意識、自己有用感等のこれらの質問項目について全国と比較するとほぼ同程度である。

「自分にはよいところがある」との回答は、平成27年度と比較すると小学校は4.3ポイント、中学校は11.7ポイント高くなった。全国と比較するとやや上回った。

「将来の夢をもっている」と回答した児童生徒は、平成27年度との比較、全国との比較ともやや下回っている。「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」は全国と比較するとほぼ同程度で肯定的な回答が多い。児童生徒が様々な役割を担い、取り組む機会を数多く設定し、結果だけでなく過程の努力についても一人ひとりのよさや可能性を認め励ますことが大切である。今後も学級・学校生活において自分自身を見つめ、将来の生き方についても考えられる活動を継続することが必要である。

＜参考＞ 令和3年度実施 川崎市立小中学校学習状況調査（小学5年生、中学校2年生で実施。）

- ・自分にはよいところがあると思う。 小学校5年生 79.4% 中学校2年生 72.6%
- ・将来の夢をもっている。 小学校5年生 85.2% 中学校2年生 64.1%
- ・難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している。 小学校5年生 79.8% 中学校2年生 64.8%

《学習習慣等》

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	全国 R4
家で、自分で計画を立てて勉強している。	60.6%	59.5%	62.6%	66.4%	69.2%	72.4%	72.5%	71.1%
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。	58.6%	59.0%	61.2%	63.2%	63.6%	61.6%	62.7%	59.4%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	全国 R4
家で、自分で計画を立てて勉強している。	45.6%	46.5%	50.3%	49.1%	46.3%	63.4%	57.4%	58.5%
学校の授業時間以外に、普段(月～曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。	70.2%	68.9%	71.1%	72.5%	72.6%	80.5%	73.2%	69.5%

学習習慣等のこれらの質問項目について全国と比較すると、同程度であった。

平成27年度と比較すると、小学校では「家で、自分で計画を立てて勉強している」において11.9ポイント、「学校の授業時間以外に1時間以上勉強している」では4.1ポイント高くなった。中学校では、「家で、自分で計画を立てて勉強している」において11.8ポイント、「学校の授業時間以外に1時間以上勉強している」では3ポイント高くなっている。

小学校、中学校ともに「学校の授業時間以外に1時間以上勉強している」では、小学校で約6割、中学校で約7割であるが、家庭で、自分で学習の計画を立て、継続的に目標をもって取り組めるよう、家庭学習の一層の充実に向けた取組が必要である。

《主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導改善に関する取組状況等》

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	全国 R4
5年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う。	—	—	—	80.7%	80.4%	82.1%	82.1%	77.3%
5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	68.4%	70.9%	66.6%	68.6%	69.0%	68.9%	65.4%
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	69.6%	69.6%	70.9%	80.5%	77.8%	82.5%	83.2%	80.1%
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。	73.9%	72.3%	78.3%	—	74.2%	80.7%	81.1%	72.7%
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。	—	—	—	—	74.5%	75.7%	78.2%	73.8%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	全国 R4
1、2年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う。	—	—	—	74.7%	77.3%	84.6%	81.9%	79.2%
1、2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	62.0%	64.8%	58.5%	62.9%	68.7%	71.7%	63.3%
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	64.3%	66.9%	68.5%	76.7%	73.5%	79.4%	78.9%	78.7%
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。	64.5%	63.8%	71.6%	—	68.5%	79.3%	81.5%	72.1%
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。	—	—	—	—	65.1%	71.7%	73.4%	71.7%

全ての質問項目において、全国と比較すると上回っている。全国と比較すると、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいた」では、小学校は4.8ポイント、中学校は2.7ポイント、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」では、小学校は3.5ポイント、中学校は8.4ポイント、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」では、小学校は3.1ポイント、中学校は0.2ポイント上回っている。各教科等で自分の考えを工夫して発表していると感じている児童生徒が多く、今後も引き続き、課題の解決を目指した主体的な学習や、自分の考えを深めたり広げたりできるような対話的な活動の充実させていくことが必要である。

総合的な学習の時間に関する回答は全国と比較すると小学校は8.4ポイント、中学校は9.4ポイント上回っている。今後も自分で課題を立て、情報を整理して発表するなど探究的な学習を継続することが必要である。

「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。」の回答は、全国と比較すると小学校は4.4ポイント、中学校は1.7ポイント上回っている。今後も学級活動において、生活上の課題を改善する話し合いを生かし、児童生徒が具体的な目標を意思決定して、実践を継続することが重要である。

《基本的生活習慣等》

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	全国 R4
朝食を毎日食べている。	94.9%	95.0%	94.5%	93.8%	94.5%	94.0%	94.0%	94.4%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	77.6%	79.1%	78.6%	76.5%	80.4%	81.2%	80.7%	81.5%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	89.4%	89.8%	89.5%	87.7%	90.9%	90.1%	89.2%	90.4%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	全国 R4
朝食を毎日食べている。	91.1%	90.4%	90.8%	88.7%	89.8%	90.8%	89.6%	91.9%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	71.8%	72.6%	73.4%	71.6%	74.3%	76.3%	76.3%	79.9%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	90.2%	90.6%	91.2%	88.6%	90.1%	90.6%	90.1%	92.2%

基本的生活習慣のこれらの質問項目について全国と比較すると、小学校、中学校ともにほぼ同程度である。平成 27 年度と比較すると、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童生徒は、小学校は 3.1 ポイント、中学校は 4.5 ポイント高くなっている。

＜参考＞

令和 3 年度実施 川崎市立小中学校学習状況調査（小学 5 年生、中学校 2 年生で実施）

・朝食を毎日食べている。 小学校 5 年生 95.4% 中学校 2 年生 89.9%

《ICTを活用した学習状況》

【小学校】 ★は新規項目

質問項目	R 4	全国 R4
5 年生までに受けた授業で、コンピュータなどの ICT を週 3 回以上使用している。	65.7%	58.2%
★学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか。（インターネット検索など）（週 3 回）	50.9%	43.9%
★学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか。（週 3 回以上）	25.6%	22.5%
★学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか。（週 3 回以上）	22.8%	21.7%

【中学校】 ★は新規項目

質問項目	R 4	全国 R4
1、2 年生の時に受けた授業で、コンピュータなどの ICT を週 3 回以上使用している。	64.4%	50.9%
★学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか。（インターネット検索など）（週 3 回以上）	50.3%	37.2%
★学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか。（週 3 回以上）	18.3%	17.8%
★学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか。（週 3 回以上）	14.3%	15.0%

ICTを活用した学習状況については、「5年生（1、2年生）までに受けた授業で、コンピュータなどのICTを週3回以上使用している。」と回答した児童生徒は、小学校、中学校ともに全国平均を上回っている。「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。（インターネット検索など）」と回答した児童生徒は、全国と比較すると小学校は7ポイント、中学校は13.1ポイント高くなった。

《地域や社会に関わる活動の実施状況等》

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R3	R4	全国R4
今住んでいる地域の行事に参加している。	53.1%	55.3%	47.4%	52.5%	57.0%	45.0%	41.1%	52.7%
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。	45.0%	—	42.7%	52.5%	55.8%	54.2%	55.6%	51.3%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R3	R4	全国R4
今住んでいる地域の行事に参加している。	34.3%	35.0%	31.9%	38.6%	39.9%	31.2%	27.1%	40.0%
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。	27.5%	—	29.6%	35.7%	35.4%	39.5%	35.3%	40.7%

「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒は、全国と比較すると、小学校は11.6ポイント、中学校は12.9ポイント下回っている。

平成27年度と比較すると、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」では、小学校は10.6ポイント上回り、中学校は7.8ポイント上回っている。

さまざまな授業を通して地域や社会の問題や出来事に関心を高め、地域の一員として、住んでいる地域の行事への参加や参画につながる指導の充実を図ることが大切である。